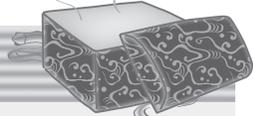


日本人学校・補習授業校 タマテバコ



トビラを開けたら、いろんなものが見えてきた……

2年目のグローバルクラスの現状報告 ～グローバルスタディーズを中心に～

香港日本人学校小学部香港校 校長 樗木 昭寿



平成28年度から4年生に1クラス開設したグローバルクラス（以下GC）は今年度、4,5年生の2学年体制となりました。担任のほかイメージン教科を担当するNative教員を増員し、5名体制で指導に当たっています。児童は現在4年生15名、5年生17名が在籍。すでに来年度の募集・選考も終わり、来春20名の4年生が入学する見通しとなりました。本校のGC教育の取り組みが少しずつ広まり、日本や他の日本人学校からの志願者も増えてきています。

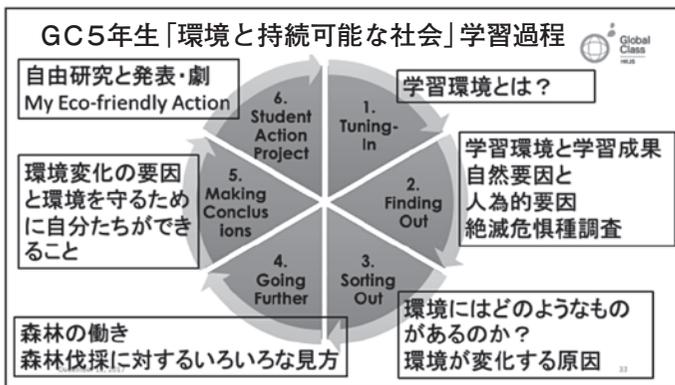
【GC教育の特色】

GC教育の特色は、①グローバル社会で通用する英語コミュニケーション能力を身に付けるための英語イメージン教科（算数、理科、英語）やバイリンガル教科（社会、家庭科、グローバルスタディーズ（以下GS））があること、②調査力、分析力、プレゼンテーション力、課題解決力などこれからの社会に必要なグローバルスキルを培うための新教科「GS」を設けていること、そして③日本人としての意識を持ちながら、グローバル市民としての主体性を育むためのSAP活動（スチューデントアクションプロジェクト）があることです。

【GSの内容と成果】

中でもGSは、国際バカロレアのUnit of inquiryを参考にした探究型サイクルの学習過程で、世界的な課題について学期に一つのテーマで学習を進めています。

四年生は昨年度の実践を基にしたカリキュラムで「多様性」や「水」の問題について、五年生は「環境と持続可能な社会」や「イノベーションテクノロジーとその影響」について新しくカリキュラム開発をしながら



イメージン理科の授業の様子



それぞれの立場に立って英語で議論する5年生の児童

学習を進めています。

GSでは、課題について考えるときにIBのキーコンセプトでもある多様な見方でApproachesを重視しています。森林を伐採するか否かの議論では、はじめは反対の考えを持っていた児童も、林業や農業従事者や村の役場等様々な立場に立っての議論をさせることで、多面的に物事を考えるようになり、考えを深めることができるようになりました。

またGSの目的は、身の回りの事象から国際的な問題に関心を持たせることを通して自分で何かActionsを起こすことにあります。そのため、学習の最後にはSAP活動として劇や研究発表、絵本作りなどを行っています。そうすることで自分が学ん



世界中の子ども達に教育を！ マララさんのスピーチで一般クラスの4年生とGC5年生の児童に訴えるGC4年生の児童

だことをクラス外にもオープンにし、これからも関心を持って実践を続けていく動機付けにしているのです。

五年生の児童が障害のある人に関する新聞記事を切り抜いてきて、一年前にGSで学習した「多様性」の学びを生かして意見文を書いてきました。また、家庭での節水がなかなかできなかった四年生の児童がカレー作りの調理実習でどのくらいの水を使うのか実際に計測して多くの水を使うことを実感することにより、家庭での無駄な水の使い方に気づき、それ以降、節水を継続するようになりました。これらの事例は、まさにGSの学習の成果であると思います。そしてGSは、社会科や国語科など他教科との横断型の教科でもあります。五年生は国語科「明日をつく

るわたしたち」の学習で、これからの機器の整備や学校生活の改善について、GSで培った調査力や分析力を活かして説得力のある提案書を作成しました。来年度の中学部との校舎統合に伴う遊び場の問題や、パソコン整備の要望など一学期に取り組んだ環境の学習や、二学期のテクノロジーの学習が活かされていました。

五年生の児童の保護者からは次のような感想をいただきました。

「一学期間、同じトピックを様々な角度から取り組んだのは初めてでした。課題がフィールドワークと連動し、本人オリジナルの成果物として実を結ぶことにやりがいを感じているようです」

学期に一つのテーマで調査・探究活動を行い、最後は何らかのAction



水の蒸留について英語で実験の支援をする大澤由恵教諭

を起す六段階の学習過程も定着しはじめ、地球市民としての主体性が育ってきています。

「GCこれから」

本校のGC教育は、国際コミュニケーションができる英語力の育成を目指しているではありません。「習得した英語で何ができるのか」というむしろコミュニケーションの内容を重視したスキルを確かに身に付け、これからのグローバル社会をリードしていける人材の育成にあります。

今年度六月に、文部科学省の「在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業（AG5）」の研究提携校として「高度グローバル人材の基礎的資質形成のためのプログラム」の開発に取り組むことになりました。

具体的には、GCでの①GSのカリキュラム開発、②英語イマージョン教科学習のカリキュラム及び指導法の開発、更には③レギュラークラスでの英語教育の強化です。これまでのGCの取り組みを継続発展させながらも、ICTを活用した新たな英語教育にも全校で取り組んでいきます。

今後、本校のGCで開発してきたカリキュラムが本校全体で、更には

他の学校でも実践でき、真のグローバル人材の育成ができる日もそう遠い未来の話ではないと思っています。

三学期には、IBの理念に基づいたカリキュラムを研究している東京学芸大学附属大泉小学校、英語イマージョン教育を行っている東京学芸大学附属国際中等教育学校やぐんま国際アカデミー初等部の視察研修を予定しています。先進校の取り組みから新たな可能性に気づき、「グローバル社会をたくましく生きぬくための確かな学力と豊かな心を持った児童の育成」を目指して、香港というグローバルシティーにある利点を活かしてチャレンジを続けていきます。今後とも皆様のご指導、ご支援をどうぞよろしくお願いします。



校長室で5年生の児童から提案書を受け取る私